

令和5年度授業改善プラン

1 全体計画

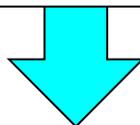
中野区立武蔵台小学校

学校教育目標
元気で生き生きとした心豊かな子ども ○考えよう ○やりぬこう ○助け合おう ○きたえよう

令和5年度学校経営方針（学力向上に関わる要点）
・児童の実態に基づいた指導方法を工夫・改善した授業の展開 ・適正な評価・評定を実施し、個に応じた指導や補充学習の充実 ・児童が主体的に学習に取り組み、学びを豊かに表現するための、思考力・判断力・表現力の育成 ・一人1台端末の効果的活用と、既存の資料活用の選択ができる力

指導の重点（各教科）
○言語活動の充実を図り、児童が自らの考えをもち、筋道を立てて表現する機会や場を設定し、思考力・判断力・表現力等を育成する。 ○主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、学びの過程や自己評価を重視し、個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実を図る。 【特に重点的に指導する教科について身に付けたい力】 ・社会科：①資料を読み取る力②資料から読み取ったことを根拠に自分の考えを広げたり深めたりする力③自分の考えを表現する力 ・生活科：①基礎的・基本的な生活力②生活の中で豊かな経験を通じて、感じたことや気付いたことを表現する力③具体的な活動を通して、思考する力

指導の重点（総合的な学習の時間）
○一人1台端末や図書資料を生かした調べ学習を取り入れ、児童自らが設定した課題を主体的に追究し、調べたことや考えたことを多様な方法で表現する探究的な学習を推進する。



授業改善に向けた具体的方策		
基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
○長い2学期制の特徴を生かし、年間を通して系統性を重視した学習計画を計画し、学力の定着を図る。 ○任期付短時間勤務教員が算数科の授業に入り、支援の必要な児童に対して個別指導を行う。	○校内研究を生かし、児童の一人ひとりの学習状況に応じ、発展的な学習などの学習活動を取り入れる。 ○教科担任制を高学年から段階的に実施することにより授業の質の向上を努める。	○指導する前に評価計画の内容を確認し、毎時間の授業の評価ができるようにする。 ○児童に学習状況の評価を伝えることで、児童が意欲的に学習に取り組めるようにする。 ○授業の評価を指導者自身の授業改善に生かす。
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実	ユニバーサルデザイン、合理的配慮	家庭・地域との連携

<p>○児童一人ひとりの特性や学習進度、学習到達度等に応じて多様な学習方法の選択ができるようにする。</p> <p>○支援の必要な児童に、より重点的な指導を行う。</p> <p>○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還を意識し指導する。</p>	<p>○教室前方の掲示物を減らし、視覚的な刺激の少ない環境を作る。また、児童一人ひとりに配慮した座席を設定する。</p> <p>○児童一人ひとりの学習進度や興味に応じて、一人1台端末を活用した個別最適な学びを推進する。</p>	<p>○家庭学習の手引きを配信し、ねらいや方法を周知する。年2回家庭学習強化活動を実施し、結果の考察と改善提示を行う。</p> <p>○探究的な学習におけるノート指導を充実させ、復習や自主学習に活用できるようにする。</p>
--	---	--

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【小学校】

国語科における指導の重点

- ①文章を書く力を身に付けさせたい。そのために日常から書いたり読んだりする活動を行い、学習内容を正確に理解し適切に表現する力が身に付けられるようにする。
- ②話し合いを深める力を身に付けさせたい。そのために、話し合い活動の機会を増やし、相手の考えを受け入れて問い返したり自分の考えと比べたりする活動を設定していく。

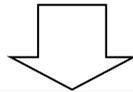
現状分析

区学力調査の結果分析

- (2年生) 達成率(目標値に達した児童の割合)は74.7。言語文化に関する事項が課題である。
- (3年生) 達成率(目標値に達した児童の割合)は83.7。文章を書くことが課題である。
- (4年生) 達成率(目標値に達した児童の割合)は72.1。結果を読み取り、文章で表現することが課題である。
- (5年生) 達成率(目標値に達した児童の割合)は73.0。活用や情報の扱いに関すること、書くことが課題である。
- (6年生) 達成率(目標値に達した児童の割合)は77.5。書くことが課題である。

教科指導上の課題

- (1年生) 語のまとまりに気を付けて音読したり、文字を書いたりすることを重点的に指導していく必要がある。
- (2年生) 言葉遊びを取り入れたり、自分の考えが明確になるように文章を書いたりする必要がある。
- (3年生) 一言感想や学習感想など書く機会を増やし、書くことへの抵抗感を減らしていく必要がある。
- (4年生) 結果を基にして考えられることを文章で表現できるようにするため、語彙力を向上させる必要がある。
- (5年生) 自分の考えとそれを支える理由を明確にして、文章を書けるよう、指導していく必要がある。
- (6年生) 漢字の読み書きや、自分の意見や考えを文章に表す力を高めるよう、指導していく必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<p>読むことは、何度も音読したり、叙述に即して読み取ったりして、分かったことを共有する。</p> <p>書くことは、経験したことから書くことを見付けて文章を書いたり、友達と書いた文章を読み合ったりすることで、協働的な学びを進めて</p>	<p>デジタル教科書を活用し、児童と教師が同じ所を開けるようにするようにし、サイドラインを引いたり挿絵から読み取ったりできるようにする。</p> <p>語彙を広げたり、表現力や思考力を身に付け</p>

	いく。交流の際は、視点を示し、よいところを見付け、自分の文章にも生かせるようにする。	たりすることができるように、言葉遊びを取り入れる。
3・4年生	<p>(3年生) 一言感想や学習感想など書く機会を増やし、書くことへの抵抗感を減らしていく。また、友達と考えを交流する場を意識して設定したり、ICT 機器を活用し、友達が書いた文を見合ったりすることで、自分が書くときの参考となるよう書く活動、友達と書いたものを読み合う言語活動を積極的に取り入れる。</p> <p>(4年生) 文章を書く際には主語と述語を意識させ、書いた文章を児童間で読み合い、加筆修正できるようにする。作文を書く際には、段落の構成を意識できるよう、全文シートやワークシートを活用する。</p>	デジタル教科書を活用し、文章全体の段落構成を意識できるよう線を引くなど、文章を構造的に理解できるようにする。
5・6年生	<p>(5年生) 交流の際のポイントを示したり、できている児童を認めたりして、交流の活性化を図る。自身の考えを積極的に伝えると同時に、相手の考えを受けて自身の考えと比べたり、考えを修正したりするステップを設ける。</p> <p>(6年生) 文章を書く際には既習の漢字を活用するよう指導する。また、目的に応じた文章の書き方(理由を明確にした文章の書き方など)について改めて説明し、実際に書かせる。他教科の振り返り等も文章を書く活動として捉え、主述の関係や段落構成などを意識できるよう声掛けする。</p>	説明文の情報と情報の関わりについて、電子黒板や一人1台端末を活用しながら指導することで、文章を構造的に理解できるようにする。読解教材では、内容を要約する活動を設定する。

(2) 社会科

【小学校】

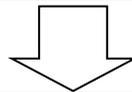
社会科における指導の重点

一人1台端末を中心とするICT機器を活用し、社会的な見方・考え方を働かせながら地図や図表、写真などの各種資料を読み解くことを通して、社会的事象についての理解を確かなものとする。その際、資料を時間・空間について比較したり、関連付けたりしながら考える機会、学習問題について調べて分かったことをまとめて発表する機会を設ける。

現状分析

教科指導上の課題

- (3年生) 社会的事象について、地図や図表などの資料を読み解く技能を身に付ける指導の必要がある。
- (4年生) 社会的事象を人々の働きや努力と関連付けて理解させる指導の必要がある。
- (5年生) 社会的事象について、グラフ等の資料を活用し、情報を比較したり関連付けたりしながら、調べたりまとめたりする技能を身に付けられるよう指導する必要がある。
- (6年生) 社会的事象について、年表や資料等を通して適切に情報を調べまとめる技能を身に付けられるよう指導する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	<p>学習問題をつくる際に一人1台端末を使い、疑問や気付きを共有する活動を通して、問題に対して自分との関わりを感じながら学習に取り組めるようにする。</p> <p>調べ学習では、自分に適した方法で選択した資料を読み取り、気付いたことを表現していく。</p> <p>また、それらを友達と交流することで互いの考えを広げ深めていく。</p> <p>基本となる資料を一人1台端末に配信し、資料を自力で探ることが困難な児童を支援する。</p> <p>本時の問いについて分かったことを交流し、社会的事象についての理解を確かなものにする。</p>	<p>学習問題の主語を働く人々にすることで、社会的事象の背景には人々の努力や工夫が密接に関わっていることを理解させる。</p> <p>社会的事象について、時間・空間・相互の関わりについて、比較したり総合したりしながら見たり考えたりしながら考える習慣を付ける。</p>
5・6年生	<p>一人1台端末を使って学習問題をつくったり、資料から分かったことなどを共有したりする活動を通して、児童同士の学び合いの時間を確保しながら自分の言葉でまとめたり表現したりする力につなげられるようにする。</p>	<p>自分の意見だけでなく、友達の見解を共有することで、考えを深められるようにする。児童のノートやタブレットでまとめたことを見せながら、児童の思考や考えを共有する。単元の最後にQubenaを活用することで基礎的・基本的な内容の定着を図る。</p>

(3) 算数科

【小学校】

算数科における指導の重点

- ①基礎的・基本的な計算力を身に付けさせる。
- ②問題を読み取り、式や図に表しながら考えをまとめたり説明したりする力を身に付けさせる。
- ③統計データから傾向を読み取り判断したり、目的に応じてグラフや表などで適切に表現したりする力を身に付けさせる。

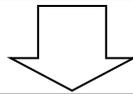
現状分析

区学力調査の結果分析

- (2年生) 達成率(目標値に達した児童の割合)は81.6。考えやその過程を説明することが課題である。
- (3年生) 達成率(目標値に達した児童の割合)は82.8。題意を把握し、正しく立式することが課題である。
- (4年生) 達成率(目標値に達した児童の割合)は89.5。問題を図や表を用いて説明することが課題である。
- (5年生) 達成率(目標値に達した児童の割合)は72.0。数量の関係を正しくとらえ、自力解決することが課題である。
- (6年生) 達成率(目標値に達した児童の割合)は70.8。学習したことを生かして解くことが課題である。

教科指導上の課題

- (1年生) 文章問題において、問題の場面を読み取る力を高めるような指導の必要がある。
- (2年生) 学習課題についての自身の考えを言語化する力を伸ばしていく必要がある。
- (3年生) 文章問題を正しく読み取り、都度適切な演算子を用いることができるように指導する必要がある。
- (4年生) 題意を正しく読み取り、文章を数学的にモデル化する力を伸ばす指導の必要がある。
- (5年生) 表やグラフから、変化する数量の関係をとらえたり立式したりする力を更に伸ばしていく必要がある。
- (6年生) 倍数や求積公式など、定義や公式を正しく覚え、活用する力を伸ばす指導の必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	(1年生) 題意が読み取れない児童は、具体物や半具体物を操作してイメージさせる。児童同士での教え合いを日常的に取り入れる。 (2年生) 既習事項を振り返る。一人1台端末を用いて考えを共有することで考えの幅を広げたり、考えを表現するための支援につなげたりする。	計算ドリルや学習プリント、Qubena等を活用し、学習内容の定着を図る。また、児童の習熟度を確実に把握することで、個に応じた指導ができるようにする。
3・4年生	(3年生) デジタル教材を活用し、「求めること」のイメージをもたせたうえで問題に取り組みさせる。また、児童に問題を作成させ、解かせ合いをすることにより、学習内容の定着度を深める。 (4年生) 問題で「求められていること」と「分かっていること」を確認し、見通しをもって自力解決に向かわせる。また、児童間で学び合い	単元の復習や家庭学習などで Qubena を活用し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。

	の時間を設けることで、理解度の底上げを図る。	
5・6年生	<p>(5年生) デジタル教材を活用し、「分かること」「求められていること」を全体で確認し、見通しをもってから自力解決に取り組むことができるようにする。</p> <p>一人1台端末を活用して互いの立式、図など一覧で確認・共有し、意見交換や説明の時間を十分に確保する。</p> <p>(6年生) デジタル教材を活用し、興味を高めて問題に取り組めるようにする。一人1台端末を活用し、自分の考えを表現したり、友達と共有したりすることで、定義や公式の言葉だけでなく、本質的な理解を図る。</p>	<p>(5年生) 授業の中で課題解決に必要となる計算を確認し、Qubenaなどを活用して習熟を図ったり学び直しの機会を設定したりする。</p> <p>(6年生) 家庭学習などでQubenaを活用し、基礎的基本的な内容の定着を図る。必要に応じて過去の学年の既習内容も反復する。</p>

(4) 理科

【小学校】

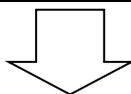
理科における指導の重点

- ①理科の特性に応じた言語活動の充実を図り、児童が自らの考えをもち、筋道を立てて表現する機会や場を設定するとともに、児童一人ひとりの思考力、判断力、表現力等の育成に努める。
- ②探究の過程や自己評価を重視し、個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実に努め、主体的・対話的で深い学びを実現する。

現状分析

教科指導上の課題

- (3年生) 生活経験から問題を設定する力を身に付ける指導が必要である。
- (4年生) 理由のある予想を思考、判断、表現する力を身に付ける指導が必要である。
- (5年生) 予想を確かめるための観察・実験の計画を立案する力を身に付ける指導が必要である。
- (6年生) 観察・実験の結果から考察する場面において、思考、判断、表現する力を身に付ける指導が必要である。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実に係る視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	(3年生) 単元導入時に、具体物やデジタル教材などを活用した自然事象を観察させ、関係性や傾向から問題を設定できるようにする。 (4年生) 観察した自然事象や既習事項、生活経験を想起させ、理由のある予想を思考、表現できるようにする。	適宜児童のノートを書画カメラ等を活用し、電子黒板で示すことで、児童の思考や表現を共有し、模範を見て学ばせる。
5・6年生	(5年生) 観察・実験の結果に見通しをもたせることで、検証できる観察・実験の計画を立案できるようにする。 (6年生) 観察・実験の結果を分析・解釈し、問題や予想に対して検討や考察させ、表現できるようにする。	単元末にデジタル教材を活用し、既習事項の定着を図る。

(5) 生活科

【小学校】

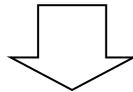
生活科における指導の重点

- ①具体的な活動や体験を通して、生活上必要な習慣や技能を身に付ける。
- ②観察カードやICTを活用し、様々な表現方法の学習を行う。
- ②見る視点や、気付いたこと、感じたことの表現方法を例示する。
- ③社会科や理科、総合的な学習の時間をはじめとする中学年以降の学習のつながりを踏まえ、思考力を養う具体的な活動や体験を行う。

現状分析

教科指導上の課題

- ①自然への関心は高いが、生活経験に個人差が見られるため、生活経験の差を配慮して指導する必要がある。
- ②観察や体験での気づきを表現したり、振り返ったりすることが苦手な児童がいる。そのため、気付いたことの表現方法を具体的に指導する必要がある。
- ③活動や学びを自分の生活と結び付けようとする意識を高める必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none">①季節の行事、動植物との触れ合い、観察活動等、具体的な活動や体験を増やすことで個人差による生活経験や体験の不足を補う。②気付いたことや考えたことを言葉、絵、動作、劇化など多様な方法から自分に合った表現方法を選択させる。②SKYMENUの発表ノートを活用し、写真を拡大したり、気づきを書き込んだりして、友達と観察の視点や表現の仕方を学び合う。	<ul style="list-style-type: none">①生活経験から課題設定を行い、ねらいを具体的に示してから活動を行う。②観察する前に、観察する視点を提示、確認する。③活動の後に、自分の生活経験との共通点や相違点を振り返らせる。

(6) 音楽科

【小学校】

音楽科における指導の重点

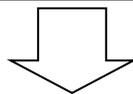
表現及び鑑賞の活動を通して、豊かな情操を育む。

- ①曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解する。音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- ②音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。

現状分析

教科指導上の課題

- (1年生) 楽しくリズムに合わせて演奏する指導や、歌うことが楽しいという思いをもてるよう指導する必要がある。
- (2年生) 鍵盤での基本的な演奏や歌唱に対して自信がもてるよう指導する必要がある。
- (3年生) 歌唱、器楽とも意欲的に取り組んでいるが、リコーダーの基礎的な技能を定着させる指導の必要がある。
- (4年生) 歌唱、器楽とも意欲的だが、どのような声や音色で演奏するとよいか考えさせる指導の必要がある。
- (5年生) 歌唱、器楽とも意欲的だが、自ら進んで表現することへの自信がもてるよう指導する必要がある。
- (6年生) 歌唱に対しては前向きだが、リコーダーの技能の差が大きい。集中を持続し、練習に取り組めるよう指導する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	ペアで演奏を見合い、「よいところ」「直すところ」を伝え合うことで協働的な学びを進めていく。また、自分で選択できる機会（楽器、歌など）を増やし、個別最適な学びを進めていく。	演奏することの楽しさを味わうために、リズム打ちをたくさん行い、そこから楽器の演奏につなげていく。また、正しい楽器の演奏の仕方を身に付けられるように、指導していく。
3・4年生	ペア学習を取り入れることで、協働的な学びを進めていく。また、ペアや小グループで発表することで友達のよいところに気付くなど、表現に対する意欲を高めていく。必要に応じて個別に支援を行う。	必要に応じて一人1台端末で自分の演奏を録音、確認しながら学習させる。リコーダーの運指、奏法等は一斉指導で行った後、ペアで確認させる。
5・6年生	曲を区切りながらスモールステップで指導していく。ペア学習やグループ学習を取り入れ、協働的な学びを進めていく。	

(7) 図画工作科

【小学校】

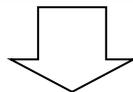
図画工作科における指導の重点

表現及び鑑賞の活動を通して材料や用具を正しく使い、創造的につくったり作品に表現できたりするようにする。その中で、自身の発想を表現し、友達と共有することで、考えを深められる指導を行う。

現状分析

教科指導上の課題

- (1年生) すすんで創作活動を楽しみ、はさみやのり、絵の具などの用具や道具を正しく扱う力を指導する必要がある。
- (2年生) 友達と交流する中でより良い作品を作ること楽しみ、道具の基本的な使い方を指導する必要がある。
- (3年生) 想像したことを表現したり、はさみや絵の具などの用具や道具を正しく扱ったり力を指導する必要がある。
- (4年生) 作品をつくる手順を理解したり、絵の具やカッターなどの用具や道具を正しく扱ったり力を指導する必要がある。
- (5年生) 描くこと、つくることに関心をもったり、自分で想像し表現することへの自信をもたせたりする指導の必要がある。
- (6年生) 集中を持続したり、作品をよりよくしていくために考えたり工夫したりする力を指導する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	(1年生) 書画カメラで道具や用具の使い方を手元で示し、視覚的に理解できるようにする。必要に応じて個別に支援を行う。また、導入時に参考作品を見せることで児童が見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2年生) 道具の使い方や扱い方を書かカメラを用いて視覚的に示す。学習過程を最初に示し、ゴールを思い描きながら活動に取り組むことができるようにする。友達の考えを聞いたり相談したりしながら、より良い作品になるように考えることができるようにする。	作品を作らせる前に、どんなことが想像できるか、アイデアを出合わせることで、多様な発想ができるようにさせる。 用具の扱い方のポイントを掲示したり、繰り返し指導したりすることで正しい使い方を定着させる。 児童の関心のあることを結び付けながら、想像を膨らますことができるよう、教科書の作品を見せたり見本を示したりする。
3・4年生	(3年生) 書画カメラで道具や用具の使い方を手元で示し、視覚的に理解できるようにする。必要に応じて個別に支援を行う。また、導入時に参考作品を見せることで児童が安心して活動に取り組めるようにする。 (4年生) 書画カメラで道具や用具の使い方を手元で示したり、ICT を活用して動画でポイン	授業の流れや道具、材料の配置を板書に示し、児童がいつでも確認できるようにすることで自分で活動の内容を理解する力の定着を図る。

	<p>トを確認したりしながら視覚的に理解できるようにする。必要に応じて個別に支援を行う。</p>	
5・6年生	<p>(5年生) 一人1台端末を活用し、参考資料、作例を自ら調べられるようにする。また、必要に応じて参考作品を用意することで題材に興味をもたせたり、安心して表現したりすることにつなげていく。</p> <p>(6年生) 一人1台端末を活用し、参考資料、作例を自ら調べられるようにする。また、他の児童の作品を鑑賞する場面を設定し、友達の作品のよさを参考にすることや、児童が考えをより深められるように助言する。</p>	<p>NHK for School などの映像教材を使用し、既習表現を含めた道具・用具の扱い方の定着を図る。</p>

(8) 家庭科

【小学校】

家庭科における指導の重点

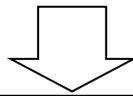
体験的な活動や問題解決的な学習を充実させ、正しい技能や知識を身に付けられるようにする。その中で、自身の考えを表現し、友達と共有することで、考えを深められる指導を行う。また、学習内容を日常の生活と関連付けて考えさせ、実践しようとする態度を育成する。家庭と連携を取りながら実生活での実践まで取り組ませ、最終的には、自分と家庭や地域とのつながりを考えられる力を付けることを目指して指導する。

現状分析

教科指導上の課題

(5年生) 被服、調理ともに技能の差が大きい。被服についての実習では技能が身に付くまでに更に時間を要すると思われる。ポイントを意識し、集中して取り組ませる必要がある。調理実習では家庭生活と関連付けて考えさせ、実践しようとする態度の向上を図る必要がある。

(6年生) 被服単元の実習では技能面の個人差が大きく、意欲低下につながりつつある児童も見られる。技能を補い、伸長する指導を行いつつ、実生活との関連を理解することで意欲を向上させる指導の必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
5・6年生	実習では、2人1組で学習に取り組み、互いに教え合うことで技能面で足りない部分を補ったり、確認し合って進めることで正しい技術を習得したりできるようにする。また、実生活との関連について各単元で確実に児童に考えをもたせ、友達と共有することで考えを深め、意欲につながるようにする。	個別の支援を行いつつ、手縫いやミシンの基本的な使い方などの動画資料を一人1台端末で、いつでも児童自身で参照できるようにする。そうすることで、完全に習得できていない技能についても確認しながら、1つずつ確実に取り組めるようにする。

(9) 体育科

【小学校】

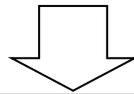
体育科における指導の重点

- ①授業時間内での運動時間を適切に確保し、基本的な技能の定着を図る。
- ②児童全体の体力向上を図るため、準備運動・体づくり運動などで基礎的な動きを取り入れる。
- ③一人1台端末を活用しながら、交流し合いより良い動きを身に付けるための時間を設定する。

現状分析

教科指導上の課題

- (1年生) 新体力テストの結果から、男子は8種目中4種目、女子は全ての項目で全国平均を下回っており、多様な運動能力を高める必要がある。
- (2年生) 学習のめあてに対してできたことを振り返る機会を多く設定し、様々な運動遊びにおいて、動きの幅を広げていく必要がある。
- (3年生) どの単元でも前向きに運動に取り組むことのできる児童が多い。器械運動では、新しい動きに挑戦できるよう、十分な運動の時間設定と挑戦したくなるような工夫を織り交ぜた指導の必要がある。
- (4年生) どの単元でも前向きに運動に取り組むことのできる児童が多い。児童の運動時間を確実に確保し、技能を伸ばしていく必要がある。
- (5年生) 自分の技能を高めるような態度を育てるため、友達同士で伝え合ったり、児童の思考を引き出ししたりするための指導の工夫をする必要がある。
- (6年生) よりよい動きを追求しようと取り組ませるため、十分に思考できる活動を設定し、児童の思考を引き出ししたり、深めたりするための指導の必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	(1年生) 様々な課題を解決するための場を用意すること、一人ひとりの課題に合った練習ができるようにする。一人1台端末を活用して運動の様子を撮影し、それを基に友達同士で助言や分析ができるようにする。 (2年生) 児童同士で活動の様子を共有する時間を設け、運動遊びの幅を広げていく。場の設定や動きの工夫を友達と一緒にやっていく。	(1年生) 準備運動で多様な体力を高めるための運動を取り入れ、運動能力を向上させる。学習カードを活用し、児童の習熟度を確認する。習熟度の低い児童には個別に支援する。 (2年生) 準備運動で音楽を流して体を動かすことへの気持ちを高める。
3・4年生	(3年生) 新しい技に挑戦する意識の向上と自己の動きの振り返りのため、手本の動画を視聴したり、自分の動きを撮影したりする。単元の最後には発表動画を撮影することにより、動きを高めていきたいという意識をもたせる。 (4年生) 技能を定着させるため、一人1台端末を活用して動きの手本写真、動画を視聴し自己の運動に取り入れられるようにする。また、	(3年生) 準備運動や運動中に音楽を流し、気持ちを高めた状態で運動に臨めるようにする。Google Classroomで振り返りを記入させ、児童の運動に対する思考を確認する。 (4年生) 準備運動で走・筋力を高めるための運動を取り入れ、体力調査で課題となった力を向上させる。

	<p>一人だけでなく、ペア・グループ運動を取り入れ、動き方について様々な意見を伝え合えるようにする。</p>	
<p>5・6年生</p>	<p>(5年生) 一人1台端末を使って動画を撮影し、自分の動きを客観的に捉えられるようにすることで思考を深めるための手がかりとする。振り返り等を一人1台端末を使い、児童相互で見合うことで、チームでのよりよい動きを追求し、話し合いを通して様々な動きを試すことにつなげる。</p> <p>(6年生) 一人1台端末で動画を撮影し、繰り返し再生したり、スローにしたりすることで、自身やチームの動きを客観的に正確に捉え、思考の手がかりとする。また、個人の考えを全体で共有する場面を設け、話し合うことで更に考えを深め、様々な動きを試すことにつなげる。</p>	<p>(5年生) 準備運動で走・跳力を高めるための運動を取り入れ、体力調査で課題となった運動能力を高められるようにする。NHK for School やカメラを使用して、基礎的な運動のポイント友達同士で確認し合ったり、助言し合ったりしながら自身の課題を明確にしながら技能を高められるようにする。</p> <p>(6年生) NHK for School などの映像教材を使用し、基礎的な運動のポイントを確認できるようにする。また、お互いの動きを見合い、助言し合う活動を取り入れることで、他者からの助言から気づきを得られるようにする。また、助言するために自身で基礎的内容を反芻することで、基礎的内容の定着を図る。</p>

(10) 外国語活動・外国語科

【小学校】

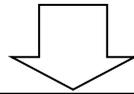
外国語活動・外国語科における指導の重点

外国語活動・外国語科の学習を通して、言語や文化に対する理解や、積極的に英語を用いて、コミュニケーションを図ろうとする態度を育めるようにする。アイコンタクトやジェスチャーなども使い、自分の思いを相手意識をもって伝えられるように指導する。ALT な外部人材活用し、多文化共生が進んだ社会の様々な場面で必要となるコミュニケーション能力の向上を目指して指導を行う。

現状分析

教科指導上の課題

- (1年生) 外国語でコミュニケーションをとることが楽しいという思いをもつような指導をする必要がある。
- (2年生) 外国語でコミュニケーションをとることを自信をもってできるよう指導する必要がある。
- (3年生) 児童が外国語の教材に親しみ、積極的に発話しようとしている姿が見られる。その中で、学習した会話について自信をもって発話できるように指導する必要がある。
- (4年生) 外国語を使って相手とコミュニケーションをとったり、簡単な会話をしたりする活動は積極的に取り組む児童が多く見られる。自身をもってやりとりができるよう、絵カードなどを活用して語句を確認しながら指導する必要がある。また、外国語を使って相手と会話をしたり、自分のことを紹介したりする活動を自信をもって取り組めるようにする必要がある。
- (5年生) 書く活動では4線を意識できるよう、アルファベットカード等を使いながら、文字の特徴に気付くことができるよう指導する必要がある。聞く活動では、粘り強く内容を把握できるよう、知っている単語や表現から大まかな内容を推測できるように指導する必要がある。
- (6年生) 聞く活動では、知っている表現から大まかな内容を推測する力を伸ばすとともに、聞き取れる表現を増やしていくための指導をしていく必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
外国語活動	<p>(1年生) 外国語の歌を歌ったりゲームをしたりすることを通して、外国語に慣れ親しむ。</p> <p>(2年生) ALT と繰り返し表現の練習に取り組む。外国語の歌を歌ったり英語の本の読み聞かせをしたりして外国語に慣れ親しむ。</p> <p>(3年生) 全体で学習した内容を使い、外国語で友達と交流する機会を多く設定する。</p> <p>(4年生) 絵カードやアルファベットカードなどを活用して、繰り返し表現練習を行い、簡単な挨拶や語句の表現に慣れるようにする。</p>	<p>(1年生) デジタル教科書で、チャンツや英語の歌を歌う。ALT との繰り返し練習をすることで、コミュニケーションに必要な言葉に慣れ親しむ。</p> <p>(2年生) デジタル教科書でチャンツや英語の歌を歌う。英語の歌を繰り返し歌って英語を使うことに慣れ親しむ。</p> <p>(3年生) デジタル教材を積極的に活用し、発音が耳になじむように繰り返し練習する。</p> <p>(4年生) 各単元の重要表現に慣れ親しめるよう、デジタル教科書を活用して、表現を定着できるようにする。また、ALT と一対一での会話を行い、外国語で発表する力を伸ばしていく。</p>

<p>外国語科</p>	<p>(5年生) 書く活動では、アルファベットカードや一人1台端末によるアルファベットトレーニングを通して、各アルファベットの高さや大文字と小文字の違いに気付かせるようにする。また、聞く活動では、聞き取るべき表現を絞って児童に提示したり、ワークシートの構成を工夫したりしながら聞く活動に取り組めるようにする。</p> <p>(6年生) 聞き取るべき表現を絞って児童に提示したり、ワークシートの構成を工夫したりして、聞く活動に取り組めるようにする。細かい表現ではなく、やり取りの大まかな内容を確認しながら何度も音声を聞かせるため、一人1台端末を使ってデジタル教科書の音源を活用する。また、聞く前に重要な表現をもう一度確認することで、聞き取れる表現を増やす。</p>	<p>デジタル教材を家庭学習で活用させ、既習表現を含めた言語材料の定着を図る。また、書く活動においてアルファベットの高さや形に注目させながら、十分に音声に親しんだ表現を書かせるようにし、単語間の間隔やピリオドなどの基礎的事項が十分に定着できるようにする。</p>
-------------	---	---

(11) 特別の教科 道徳

【小学校】

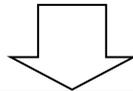
道徳科における指導の重点

- ①自分の考えをもった上で、友達の考えに傾聴し、話し合うことを通して、物事を多面的・多角的に考えられるようにする。
- ②すすんで考えを発言できるようにする。
- ③児童が毎時間の道徳科の学習の学びを生かして、自己の生き方についての考えを深められるようにする。

現状分析

教科指導上の課題

- ・自分の考えをもたせるための指導の工夫が必要である。
- ・登場人物の心情に対して自我関与させるための手だてが必要である。
- ・児童がすすんで考えを交流し合えるようになるための指導の工夫が必要である。
- ・自己の振り返りの場面で、児童が毎時間の道徳科の学習の学びを生かして、自己の生き方についての考えを深められるようにするための手だてが必要である。



授業改善プラン

具体的な授業改善案

- ・発達段階に応じて、導入で教材の内容を紹介したり、指導者用デジタルブック等を活用したりするなどして、教材提示の方法を工夫することで、登場人物に自我関与して自分の考えをもてるようにする。
- ・ペア、小グループ、全体など、様々な形態での話し合い活動を授業に取り入れ、毎回の授業で一人一回以上発言する機会を設定する。
- ・自己の生き方についての考えを深めるために、全校で共通の表示を活用する。
- ・自己の振り返りの場面で、児童同士の交流の時間を設けるなどして、ノートへの記述が書き終わった児童同士（考えが思い浮かばない児童）で話し合うことで、自己の生き方についての考えを深められるようにする。